



# 恵庭市立図書館 本館

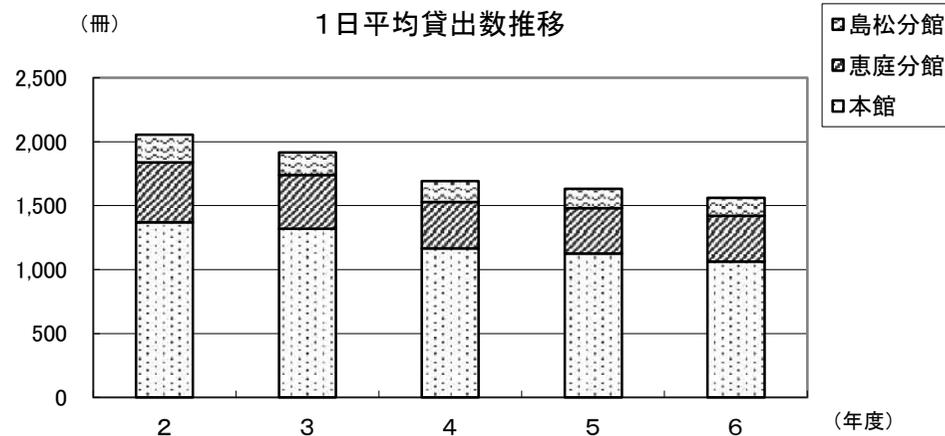
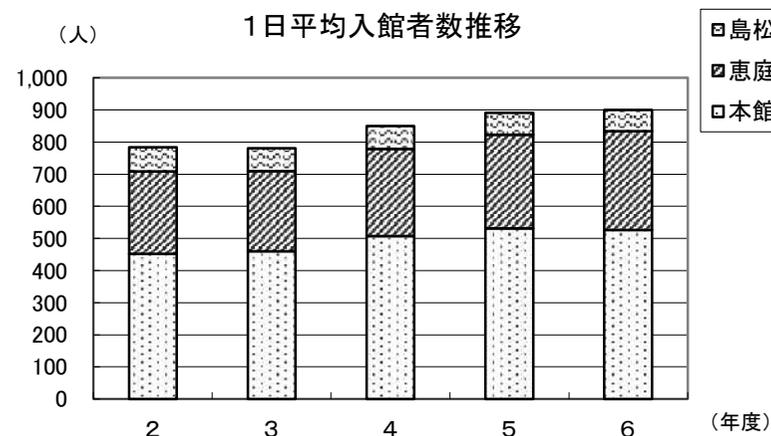
年度	開館日数	入館者数	1日平均入館	蔵書数	貸出冊数 (内児童書)	1日平均貸出
2	259	117,083	452.1 人	212,862	354,415 (113,206)	1,368.4 冊
3	272	125,320	460.7 人	209,373	358,950 (126,078)	1,319.7 冊
4	301	152,735	507.4 人	203,855	351,444 (127,202)	1,167.6 冊
5	297	157,788	531.3 人	205,232	334,724 (123,164)	1,127.0 冊
6	299	157,236	525.9 人	203,883	317,889 (115,057)	1,063.2 冊

# 恵庭分館

年度	開館日数	入館者数	1日平均入館	蔵書数	貸出冊数 (内児童書)	1日平均貸出
2	237	60,869	256.8 人	43,035	111,015 (45,918)	468.4 冊
3	272	67,751	249.1 人	44,547	114,251 (45,183)	420.0 冊
4	359	97,596	271.9 人	43,328	129,607 (53,885)	361.0 冊
5	360	104,749	291.0 人	43,559	127,455 (50,870)	354.0 冊
6	359	110,491	307.8 人	43,934	128,478 (51,183)	357.9 冊

# 島松分館

年度	開館日数	入館者数	1日平均入館	蔵書数	貸出冊数 (内児童書)	1日平均貸出
2	256	19,229	75.1 人	32,820	55,639 (19,499)	217.3 冊
3	272	19,417	71.4 人	33,149	48,122 (16,835)	176.9 冊
4	298	21,095	70.8 人	33,133	48,864 (17,507)	164.0 冊
5	300	20,713	69.0 人	33,345	46,032 (17,841)	153.4 冊
6	302	20,026	66.3 人	33,163	42,540 (16,155)	140.9 冊

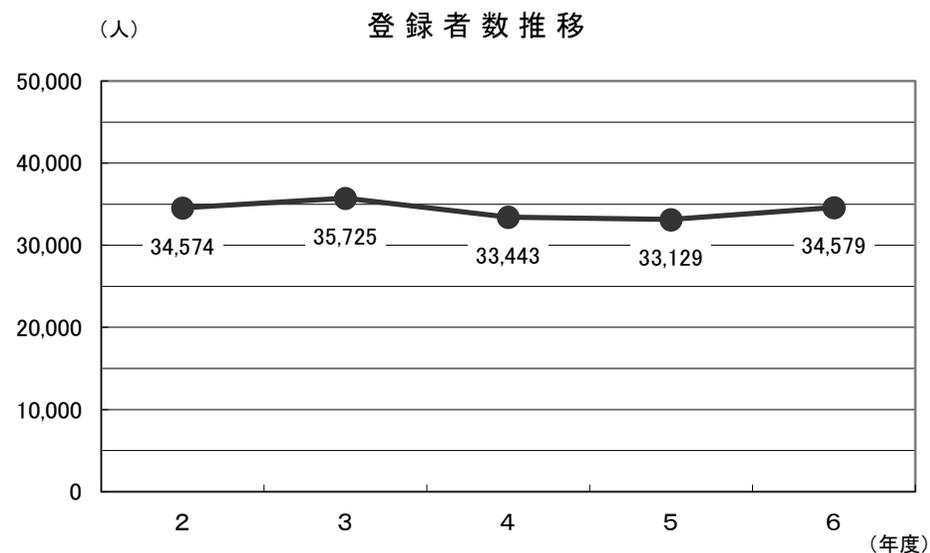
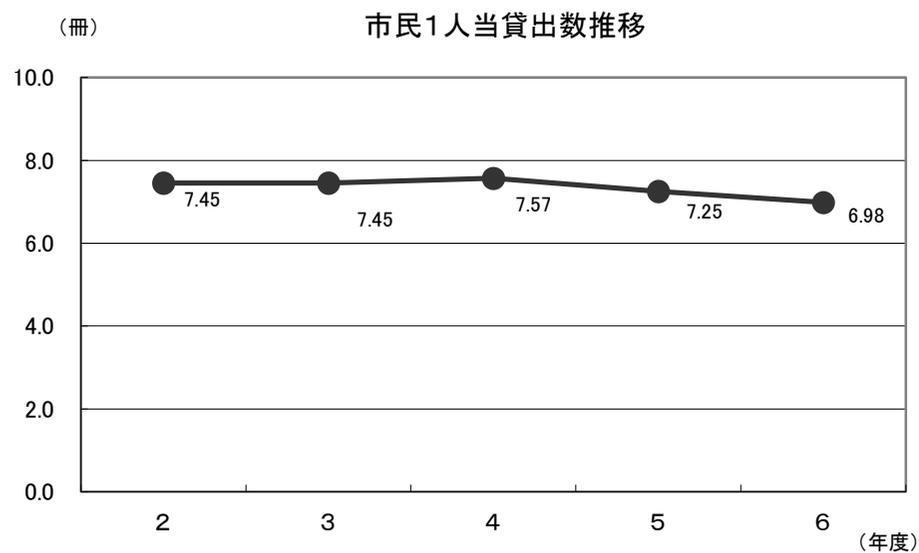


# 図書館全館

年度	開館日数 (3館平均)	入館者数	1日平均入館	蔵書数	貸出冊数 (内児童書)	1日平均貸出	市民1人当貸出	登録者数
2	251	197,181	785.6 人	288,717	521,069 (178,623)	2,076.0 冊	7.45 冊	34,574 人
3	272	212,488	781.2 人	287,069	521,323 (188,096)	1,916.6 冊	7.45 冊	35,725 人
4	319	271,426	850.9 人	280,316	529,915 (198,594)	1,661.2 冊	7.57 冊	33,443 人
5	319	283,250	887.9 人	282,136	508,211 (191,875)	1,593.1 冊	7.25 冊	33,129 人
6	320	287,753	899.2 人	280,980	488,907 (182,395)	1,527.8 冊	6.98 冊	34,579 人

※ 「市民1人当貸出冊数」は、前年度の3月末日の人口を使用しています。

※ 「蔵書数」は、雑誌を含んだ冊数です。



# 読書活動推進方針

「恵庭市人とまちを育む読書条例」及び「第2期恵庭市読書活動推進計画」に基づき、全市的に読書活動を推進します。

市立図書館については、指定管理事業者による各種図書館サービスの充実を図るとともに、市民との協働による恵庭まちじゅう図書館、図書館まつり、図書館開館 24 時などの事業推進や、生涯にわたり読書活動を行うことができる環境づくりに努めます。

また、ICT を活用したサービスの推進により読書環境の更なる充実に努めます。

学校での読書活動については、学校司書を引き続き配置するとともに、学校図書館の蔵書の整備充実、児童生徒の読書習慣の形成、家読の定着及び調べる力の育成を推進します。



## ●恵庭市読書活動推進計画の推進

- ・計画に基づく各種事業及び施策の推進

## ●生涯各期に応じた読書の推進と環境づくり

- ・ブックスタート・ブックスタートプラス事業の充実
- ・読み聞かせ活動の推進
- ・幼稚園・保育園等での読書活動の推進
- ・学校図書館環境の整備
- ・司書教諭及び学校司書の研修の充実
- ・朝読、家読の推進
- ・小中学生調べる学習コンクールの開催
- ・高校・大学世代への読書活動の啓発
- ・高齢者や障がいのある方へのサービスの推進
- ・外国人に向けたサービスの推進

## ●市民との協働による読書活動の推進

- ・子ども読書の日記念事業の実施
- ・各種読書活動団体等の育成支援
- ・恵庭まちじゅう図書館事業の推進
- ・市民による読書活動の推進
- ・人とまちを育む読書推進月間事業の開催
- ・ボランティアとの協働の場の拡大

●**図書館サービスの充実と適切な環境の整備**

- ・講演会・上映会等の実施
- ・情報提供サービスの推進
- ・図書館恵庭分館の一部無人開館の実施
- ・多様な利用方法の推進
- ・えにわ電子図書館の充実

領域：読書推進

事業名	期日	対象	趣旨	R7年度 評価事業
<b>図書館事業（資料収集・提供）</b>				
<b>1.資料の収集</b>	通年	市民	多様化する市民の資料要求に迅速、的確に対応できるよう図書、雑誌、視聴覚資料、郷土資料、行政資料等を収集保存。	
(1)図書の収集				
(2)雑誌の収集				
(3)視聴覚資料の収集				
(4)その他の資料の収集				
<b>2.資料の提供</b>	通年	市民	市民の様々なニーズに応えるため、所蔵する資料に加えて、道内外の図書館から資料を借受ける相互貸借サービスを活用し、資料の提供を行う。また、いつでも資料の予約ができるインターネット予約サービスの活用を促進する。	
(1)図書、雑誌の貸出				
(2)予約・リクエストの受付				
(3)レファレンスサービス				
(4)資料検索及び資料案内				
<b>3.情報提供サービスの推進</b>	通年	市民	インターネットや各種データベースの活用促進を図るほか、利用者の嗜好に応じた新着図書情報や過去の貸出記録が管理できる機能の提供など、多様なニーズに対応した情報提供に努める。	
(1)インターネット及び各種データベースの利活用				
(2)新着図書情報データ配信サービスの実施				
(3)読書履歴管理機能の活用				
4.電子図書館	通年	市民	インターネットを通じて本(電子書籍)の閲覧・貸出が可能な電子図書館サービスの充実を図る。	
5.団体貸出	通年	市内団体等	学童クラブ・学校・団体などへの図書団体貸出を推進。	
6.図書宅配サービス	通年	市民	市民を対象に本の宅配サービスを実施。	
7.ブックステーション	通年	市民	黄金ブックステーション及びかしわのもりブックステーションの運営。	
8.小型移動図書館車	6月末より通年	市民	市内イベント等での図書館周知及び資料の貸出。	
<b>図書館事業（児童サービス）</b>				
<b>1.おはなし広場</b>	毎月4～6回	乳幼児～ 小学校低学年	絵本の読み聞かせを通して子どもの豊かな心や想像力を育成するため、読み聞かせ団体等の協力により実施。また、学校の休業期間やハロウィンに合わせたスペシャルおはなし会を実施。	
(1)本館				
(2)恵庭分館				
(3)島松分館	毎月2回			
2.BALLOONおはなし会	毎月1回	幼児～児童	洋書絵本を原語で読み聞かせる。	
3.家読の普及活動	随時	児童生徒及び保護者	読書を通して親子のコミュニケーションを図る家読（うちどく）への理解を深める各種取組を実施。	
4.子ども読書の日記念事業	4月中旬～5月中旬	幼児～小中学生	4月23日の「子ども読書の日」を記念し読書推進のための各種事業を開催。併せて小中学校での取組を啓発する。	
5.ぬいぐるみおとまり会	年1回	幼児～児童	子どもたちの大切にしているぬいぐるみを預かり、図書館内での活動を創作・記録するおとまり会を合わせて開催。	
6.ニコニコさつえい会	年2回	乳幼児	絵本の読み聞かせ後に、お子さんが絵本の場面を再現するイベントを開催。	
<b>図書館事業（文化集会事業）</b>				
1.作家講演会	未定	市民	作家を招いて作品についてのエピソードを語ってもらうことで本の魅力を広げる講演会を開催。	
2.上映会	毎週水曜 第2・4土曜	市民	子どもから大人まで映像文化を学び親しむ機会を提供。	
3.大人のための朗読会	年1回	市民	大人を対象に物語の世界に浸って本を楽しむ朗読会を開催。	

事業名	期日	対象	趣旨	R7年度 評価事業
<b>図書館事業（障がい者等サービス）</b>				
1.障がい者サービス				
(1) 図書の点訳・音訳	通年	視覚障がい者	障がい福祉及び広報担当部署と連携し、朗読及び点訳赤十字奉仕団の協力を得て、録音・点訳された資料やサビ工図書館を活用した資料の郵送貸出を実施。また、朗読赤十字奉仕団の協力により視覚障がい者への対面朗読を月2回実施。	
(2) 郵送貸出				
(3) 対面朗読サービス				
(4) サビ工図書館				
<b>図書館広報事業</b>				
1.図書館活動のPR				
(1) 図書館だより	月1回	市民	図書館の行催事や新着図書のお知らせ等、図書館活動のPR紙の発行。	
(2) ホームページ・Facebook	随時		図書館の行催事やお知らせ、図書館活動を掲載。	
(3) 図書館要覧の作成	年1回		図書館の各種利用状況をまとめた年報を作成。	
<b>図書館事業（学校へのサービス）</b>				
1.小中学校への支援				
(1) 総合学習の受入	随時	小中学校等	総合学習の受入、施設利用及び調べ学習サポート等、児童生徒の受入れを積極的に努める。また、読み物（文学系）を中心にした団体貸出についても継続し支援する。 学校図書館と市立図書館蔵書のオンライン検索及び配本システムの活用促進を図り、読書支援と学習支援に努める。	
(2) 職業体験の受入				
(3) 団体貸出				
(4) 学校図書館配本システム				
2.高校ブックライン事業	随時	恵庭北高校 恵庭南高校 北海道文教大附属高校 の生徒及び教員	小中学校で身に付けた読書習慣を高校においてより確かなものにし、読書力を高め、主体的な読書活動を推進する。	
<b>協働連携事業</b>				
1.全市的読み聞かせ活動の推進				
(1) 各種団体の育成支援	通年	市民	家庭や市内各所での読み聞かせ普及のため、読み聞かせ活動を担う個人や団体等の支援に努め、ボランティアの育成を図るとともに、活動の場の開発及び提供を推進する。また、各幼稚園等に図書を配置し、読み聞かせ活動の推進を図る。	
(2) 読み聞かせ講習会等実施	年1回			
(3) 幼稚園や保育園での読書活動推進	随時			
2.恵庭まちじゅう図書館事業の推進	通年	全市	市内の店舗等に置かれた本を通して地域の交流づくりに活用する。	
3.ブックスタート事業				
(1) ブックスタート	毎月1回	9～10ヵ月児 及び保護者	乳児期から絵本の読み聞かせを定着させ、親子のコミュニケーションを創出することを目的に実施。	
(2) ブックスタートプラス		1歳6ヵ月児 及び保護者	ブックスタートで絵本と出会った親子に対し、家庭読書の浸透と継続を目的として実施。	
4.図書館開館24時	年1回	市民	深夜まで図書館を延長開館し、通常は来館困難な市民に対する図書館サービスの提供の機会とする。	○
5.図書館まつり	10月	市民	幼児期からの各世代を対象に多彩なプログラムを実施する。	
6.本のリサイクル市	年2回	市民	図書館ボランティア「黄色いエプロンの会」主催により、市民から提供を受けた本のリサイクル市を開催。併せて図書館の除籍資料の無償提供を行う。	
7.ガーデニングワークショップ	年数回	市民	図書館本館前庭花壇を会場とした講習会を開催する。	
8.司書の派遣	随時	乳幼児とその親	ファミリーサポートや子育て支援センター及び関係機関の要請に応じて司書等を派遣し、図書館や読み聞かせ等に関する理解を深めてもらうとともに、読書活動の普及・啓発を行う。	
<b>学校図書館事業</b>				
1.学校図書館活動の推進				
(1) 学校における読書活動	通年	小中学校	朝読書や読み聞かせ、家読等により読書習慣の形成を図り、学校における読書活動を推進する。また、図書の整備充実を図るとともに、配本システムを活用した全市的図書資料の共有化を推進し、司書教諭と学校司書の連携、学校図書館活動の理解を深めるため合同研修等を実施する。更に、「小中学生調べる学習コンクール」を開催し、図書館を利用した調べ学習の推進を図る。また、学校間のネットワーク化と学校図書館活動の充実・支援を図る。物語や科学を楽しむための本を各小中学校に定期的巡回展示と貸出を行う。	○ 朝読・家読
(2) 図書の共有化推進				
(3) 司書教諭・学校司書の研修会開催				
(4) 朝読・家読の推進				
(5) 調べる学習コンクール開催				
(6) 学校図書館活動推進協議会				
(7) 物語定期便				

## 令和7年度 読書推進関係予算

科 目	本年度予算額	前年度(当初)予算額	比較
教育費(学校教育関係費含まず)	201,275	181,023	20,252
教育総務費(学校教育関係費含まず)	45	72	▲ 27
教育委員会費(学校教育関係費含まず)	45	72	▲ 27
一般事務費	45	72	▲ 27
読書推進課	45	72	▲ 27
社会教育費	201,230	180,951	20,279
図書館費	201,230	180,951	20,279
読書推進事業費	183,630	180,951	2,679
図書館施設等改修事業費	17,600	0	17,600

## 令和7年度 読書推進関係補助金予算

名 称	交 付 先	令和7年度	令和6年度	増減額
【図書館】				
学校図書館推進事業交付金	学校図書館活動推進協議会	821	821	0



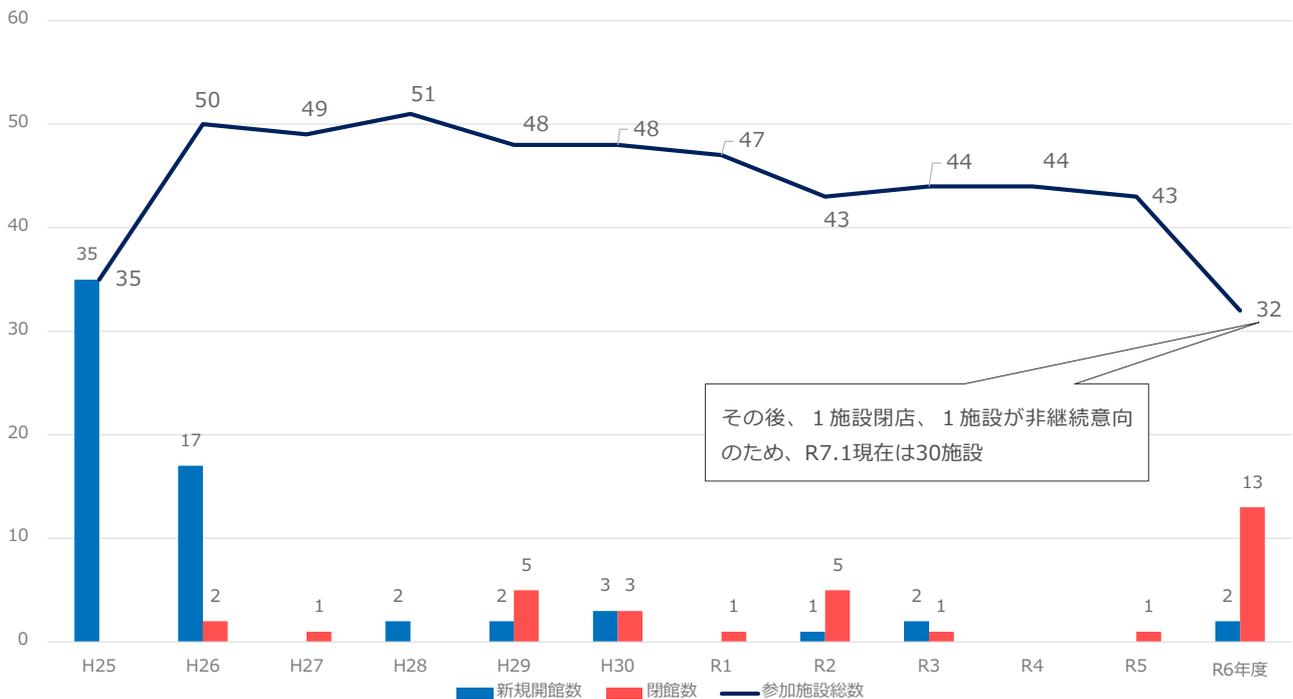
## II 「恵庭まちじゅう図書館」とは

- 平成25年4月1日に施行された「恵庭市とまちを育む読書条例」を受けて同年10月6日に始まった、市内のどこでも読書を楽しむことができる事業。
- 店舗やオフィスなどのスペースに店長や経営者、スタッフのお気に入りの本を展示し、訪れた人が自由に読んでもらい、本を通じた会話を楽しむ交流型の図書館
- 店主らが館長となり、貸し出しの有無やイベント開催など、それぞれが独自のルールで運営
- 市は市立図書館の除籍本の無償提供、書棚の貸し出し、パンフレットやフラッグ作成等の支援を行ってきた
- 図書館には置かれていない本やコミックスも多数



活かす人へ  
 北海道文教大学 地域創造研究センター

## III 「恵庭まちじゅう図書館」参加施設数の推移



活かす人へ  
 北海道文教大学 地域創造研究センター

## Ⅳ 「恵庭まちじゅう図書館」へのヒアリング調査概要

調査日時：令和6年7月～令和6年12月 ※一部挨拶のみ

調査方法：対面によるヒアリング

※北海道文教大学地域創造研究センター＋読書推進課で対応

調査対象：まちじゅう図書館参加33施設 ※非継続の3施設を含む

調査のねらい：

まちじゅう図書館開始から10年以上が経過し、かつコロナ禍を経験したことも含めて、現在の課題や今後の展開に向けた方向性を探る。また今年度作成予定のパンフレット改訂と移住向けパンフレットへの掲載の許可を得るほか、市読書推進課や市立図書館の役割などについても意見をうかがう。

※合わせて一部の施設では岡本書店閉店の影響などもうかがった。



活かす人へ  
北海道文教大学 地域創造研究センター

5

## Ⅴ 「恵庭まちじゅう図書館」へのヒアリング調査結果概要①

### 参加のきっかけ

- 多くの施設が市図書課（当時）からの声掛けで参加
- 開店や開業時に無料で広告代わりに発信できるPR効果を期待
- 1、2割程度だが、理念に共感したり、それまでの恵庭市の読書文化政策への恩返し（ブックスタートや朝読への感謝）の思いから参加
- わずかだが、他施設のオーナーや経営者などとの交流を期待

### まちじゅう図書館活動の成果

#### 読書環境の充実

- ・市立図書館に行けない高齢者は重宝
- ・身近に本がある環境の提供
- ・図書館にない本の充実や予約待ちせずに借りられる環境

#### 市民参加の読書文化活動の実践

- ・市民による手作りの図書館・市民が運営する図書館
- ・公立図書館ではない良さと意義

#### オーナーの独自運営による読書文化活動

- ・独自の読書会開催
- ・「今月のおすすめ本」展示

#### 地域経済への寄与

- ・定期的な来客の確保

#### 本を通じた交流や会話の促進

- ・本の話で会話が弾む
- ・本を通じた会話の広がり
- ・新刊などの情報交換の場
- ・信頼感の中での貸出運用
- ・本を通じた社員教育へのつながり

#### 本の循環促進とエコ意識の情勢

- ・自宅の書棚代わりに利用
- ・客の寄贈本受け入れ→市立図書館→本のリサイクル市
- ・本を通じて物を大切にできる心が養われる

読書文化政策への理解の深化  
恵庭市のまちの価値向上

活かす人へ  
北海道文教大学 地域創造研究センター

6

## V 「恵庭まちじゅう図書館」へのヒアリング調査結果概要②

### 現在の課題1 – まちじゅう図書館活動の停滞（オーナー側）

- ・本の入れ替えができない（自前で購入できない）、開架冊数の減少
- ・施設内でのスペース確保が困難になってきた
- ・人出不足で管理が手薄
- ・独自イベント開催の後継者が育たず荷が重くなった、個店では後継者対応が可能か不明
- ・活動を上げるとオーナーの負担が増す
- ・オーナー間の温度差による意識の違い  
(本への思いの温度差、会議の集まりが悪い・形骸化、ニーズの違い、共有感を持てる仲間がいない)
- ・手に取りやすいレイアウトになっていない
- ・日焼けによる本の変色への対応ができていない

### 現在の課題2 – まちじゅう図書館活動の停滞（利用者側）

- ・まちじゅう図書館の利用者減
- ・スマホやインターネットの普及による貸し出しなどの利用減
- ・まちじゅう図書館における読書環境の変化（金融機関の待ち時間短縮促進など）
- ・コロナ禍による活動休止の影響

### 現在の課題3 – まちじゅう図書館活動の情報発信不足など

- ・トップが異動する施設（金融機関など）では理念や趣旨が引き継がれていない
- ・市外からの通勤者が「本のまち えにわ」を知らない
- ・恵庭駅周辺に「本のまち えにわ」を実感できる象徴的な空間がない
- ・まちじゅう図書館の認知率が低い、まちじゅう図書館として利用できることを知らない
- ・市立図書館のサービス全般に関する認知率が低い
- ・まちじゅう図書館（オーナー）間での情報交換の場がない
- ・行政担当者の異動による継続性の課題、「図書館ともっとつながりたい！」  
活かす人へ
- ・除籍本提供などの情報共有不足

北海道文教大学 地域創造研究センター

7

## V 「恵庭まちじゅう図書館」へのヒアリング調査結果概要③

### ヒアリングの声から～今後に向けて～短期的な視点から～

#### 1 情報発信

- ・「本のまち えにわ」、まちじゅう図書館の意図・趣旨、目指す姿などの情報発信
- ・（まちじゅう図書館における）本の情報のマッチングと共有の仕組みづくり
- ・SNSを活用した本のまちのPR、情報発信、スタンプラリーの展開、
- ・（行政による）情報発信やPR
- ・名刺サイズや持ち運びできるサイズの印刷物
- ・新聞やミニコミ誌で記事になるようなイベントの開催
- ・利用者（市民）を巻き込んだ情報発信
- ・メルマガなどによる本の情報発信
- ・まちじゅう図書館の活用法などの情報発信

#### 2 運用サポート

- ・（市読書推進課が市立図書館による）定期的な本の入れ替え体制の検討（除籍本提供の仕組みづくり）
- ・各店舗のカラーにあった本の提供（除籍本活用）
- ・人事異動がある施設における引き継ぎ対応サポート

#### 3 利用促進活動

- ・（まちじゅう図書館同士）の本の循環の仕組みづくり
- ・「えにわか」を活用したポイント制度の導入
- ・開業時店舗のほか、病院・飲食店・ガソリンスタンド・車関連ショップなど、待ち時間が発生する施設への参加勧誘
- ・市立図書館のお薦め本の入れ替えなど、まちじゅう図書館単独ではできない企画の検討
- ・まちじゅう図書館を会場にしたイベントの開催（ビブリオバトルなど）
- ・新規客開拓になるような来店のきっかけづくり
- ・市立図書館と連携した特別感のある取り組み
- ・タブレットを活用した取り組みの展開

#### 4 その他

- ・子どもたちにスポットライトを当てる工夫
- ・ブックスタートや朝読の経験を生かした展開（当時と同じ本を開架する、当時読んだ本をコンプリートするなどのユニークな企画）

北海道文教大学 地域創造研究センター

8

## V 「恵庭まちじゅう図書館」へのヒアリング調査結果概要④

### ヒアリングの声から～今後に向けて～中長期の視点から～

- ・まちじゅう図書館の**サテライト（アンテナショップのような）空間**の展開（いざりえの有効活用と合わせて）
- ・**本や読書で商店街を活性化**する取り組み、商店街活性化につながるイベント開催
- ・**高齢者向け図書館サービス**の充実（訪問介護・看護事業との連携による高齢者向け本の貸し出しサービス等）の検討
- ・不要本回収のルート検討（近くまで回収してほしい）
- ・**地域資料収集の協力拠点**としての機能付加
- ・まちじゅう図書館の**若い世代の利用促進**
- ・高校生や大学生とのまちじゅう図書館の接点づくり
- ・**施設属性にあったまちじゅう図書館の役割整理**と情報発信
- ・異分野のつながり、コミュニケーションづくりによる**つながりの深化と、恵庭情報の循環**
- ・**シェアの精神の啓蒙**
- ・相談相手や実行に移すことができるコーディネーターの存在
- ・恵庭だけで流す本を創るなど、本がまちじゅうを動き、本がまちを動かす**恵庭だからこそできること**
- ・**創造的なことにチャレンジする若者を応援**する仕組みづくり



活かす人へ  
北海道文教大学 地域創造研究センター

9

## VI 「恵庭まちじゅう図書館」ヒアリングを終えて～これからのに向けての所感～

### 1) 事務局機能の強化

各施設が独自に運営する仕組みは変える必要はないが、まちじゅう図書館の意義を定期的に互いに確認するほか、除籍本提供や困りごとのサポートなどのためにも事務局機能を強化する必要がある。読書推進課か市立図書館がその機能を担うのかは今後の検討事項だが、いずれも情報共有あるいは協働して事務局機能を定着させるべきではないか。

### 2) 継続的な情報発信

今回のヒアリングで多く寄せられた声に情報発信があった。SNSの活用や市が保有するアプリなど、詳細はさまざまであったが、認知率向上、利用促進のために情報発信は欠かせない。特にコロナ禍で利用を制限して以降はまちじゅう図書館の利用停滞、参加施設の減少が大きく目立つことから、改めてまちじゅう図書館の情報発信が不可欠になってきていると思われる。

### 3) 施設勧誘

現在30施設と一定規模の施設が参加しているが、最大で51施設であったことを考えると、参加施設を増やす取り組みは必要ではないか。多くの施設が参加のきっかけは市からの声掛けだったことから、既に本を置いている施設などに声がけをすることで参加施設を増やしていくことは可能と思われる。

### 4) 「本のまち えにわ」の象徴的な拠点や空間に向けて

まちじゅう図書館に限らないが、「本のまち えにわ」を体感できる象徴的な施設や空間が必要ではないか。特に、岡本書店の閉店により「本のまちに書店がない」ことは大きな課題といえる。近年は移動販売型、間借り型、棚貸し型、協働型など、全国で多彩な「本屋」が登場している。こうした動きを学び、恵庭らしい本の拠点や空間づくりができないかを検討する意義はあるように思う。

### 5) 読書を通じて培った創造力を応援する仕組み

読書は考える力と創造力を養う。今後は、子どもたちや市民の創造力を応援していくことも重要な取り組み出るように思う。想像力を発揮できる仕掛けや機会づくりも必要ではないか。

活かす人へ  
北海道文教大学 地域創造研究センター

10